

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年9月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202189		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	彩葉(いろは)		
所在地	〒858-0907 長崎県佐世保市棚方町424-272 (電話)0956-47-7300		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	平成19年10月2日

【情報提供票より】(H19年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算 6,9人	

(2)建物概要

建物構造	木造二階建て造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分		
------	-----------------------------	--	--

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,980 円	その他の経費(月額)	光熱水費 3,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 82、5 歳	最低 70 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 愛生会医院 ・ おおつぼ歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関から出迎えていただいた際、職員は自信とエネルギーに満ち溢れており、入居者にも表情の豊かさや自発性が見られた。入居者と職員が集団の中でそれぞれの役割を持って協働し、喜怒哀楽を共有しながら共同生活を営んでいる様子に活力があり、【その人らしさ】が発揮できているホームである。運営推進会議の導入によって、視野と交流範囲の拡張がホーム運営の活気に拍車をかけ、町内会長の理解と尽力はホームと地域の架け橋でもある。今後も双方の知恵と力を出し合って協働され、高齢者が住みなれた土地で子供と触れ合いながら、いつまでも生き生きと生活できる地域密着型のグループホームを目指されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善計画シートを作成され、優先順位、改善内容、期間、評価を記入し確実に意識した取り組みをされている。個別記録の記入法見直しについては、入居者に即した介護計画作成と職員間の介護計画の共有が出来ている。外出の支援は、ベッド上の生活の入居者に注目し、離床の取り組みからの支援である。又、入浴介助のあり方と、諦めずに出来ることから着手する地道な対応を学ばれ、その結果、職員の自信と向上心が培われた取り組みになっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりに自己評価票を記入してもらい、各ユニットごとの管理者でそれぞれまとめられたものである。管理者にとってまとめの作業は、職員一人ひとりのケアサービスの取り組み姿勢を知る良い機会となり、運営内容を見直す判断材料を得たことで次のステップの糸口を見つげられている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に一度の運営推進会議も議事進行に苦慮することもなく、ホームの抱えている悩みや現状を伝え地域の協力を仰がれている。地域の行事に入居者個人としての参加の容認を依頼されたり、ホーム近辺の徐行運転の依頼、または、地域の在宅高齢者や家族に対してのホームの多機能性の提供など具体的な支援法を伝えられ、ホームと地域の呼応した会議進行でそれぞれが持ち帰り、次の会議に反映されている。町内会長も柔軟な態度で対応されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の要望は直接伝えられることが多く、全職員で情報の共有をして対応されている。経営者は、苦情に関して、家族の伝えにくい心情なども理解されており、現在、ネット上で、無記名でログインしてもらう方向性で、付随するパソコンの操作方法の手順講習も、範疇に収めての取り組みで検討されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>これまで、地域の夏祭りや町内清掃などへの積極的な参加の取り組みはされていたが、地域にあまり入り込めずに足踏み状態が続いていた。地域密着型になってから運営推進会議の開催をきっかけに、地域と連携を図る機会に恵まれ、入居者個人としての取り組み、ホームとしての取り組みを地域に提示され、少しずつ改善されてきている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者を中心にこれまでの理念を見直し、地域を意識した具体的イメージを持って、【毎日、楽しく、明るく、元氣よく、地域の方と共に、喜びを】に改められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者・職員の心身の健康維持支援と入居者に否定的言葉を使わないよう、定期的に意識付けで理念の共有と実践に向けた取り組みに繋がられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の夏祭りや清掃などの行事には入居者・職員の積極的な参加の取り組みをされている。運営推進会議の開催を機に地域の方、特に町内会長の理解と尽力の下、地域との交流に道が開けつつある。ホームからも具体的取り組みの提案・打診をされており、町内会の具体的検討の回答も得られ、双方向の交流をされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価票に記入の取り組みをされている。記入する一連の過程でそれぞれに得るものがあり、特に、ユニットごとにまとめられたことによって、管理者が職員の業務に対する姿勢や理解度の把握に繋がりが、今後の運営に反映できる判断材料としての価値を見出されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成16年の開設当初より、地域との関係作りを課題に改善策を検討されていたので、運営推進会議の取り組みは実に成果のあるものとなっている。今のところ2ヶ月に1回順調に開催されていて、会議運営も地域の方と協同されたものとなっている。		

グループホーム 彩葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連携も十分とは言えず、相談・報告の機会も少ない。又、相談窓口の内容・設置把握はされているが積極的利用の取り組みはされていない。		ホームの現状に合った相談窓口を利用され、市と連携した取り組みからもサービスの質の向上を目指されることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、入居者の様子や生活ぶり、健康状態を伝える便りを送付されており、面会時や随時の報告も家族の意向を踏まえて一方的にならないよう配慮されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見など伝えてもらえるように、相談窓口の明示や声掛けなど取り組みをされているが、利用者側の声が聞こえてこないのが現状である。そこで、利用者側の伝えにくい心情も十分理解され、現在、ネットを利用して無記名でログインしてもらう方向で、パソコン操作の手順も含めて検討されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職は必要最小限に抑えるよう努められているが、やむを得ない場合は入居者・職員間のコミュニケーションを大事にされ、フェイスシートなどの利用で情報の共有と統一したケアの提供に努められている。又、入居者の不安を払拭するために顔と名前を覚えてもらえることから地道に取り組みをされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な範囲で研修・学習会への参加の取り組みはされており、その都度の伝達講習に繋がられているが、実践や現場に即した内部研修に偏りがある。		キャリアや専門性を活かし、実践を通じた現場研修で職員の育成を試みられ成果を挙げられている。今後は介護・援助技術に不安や疑問を持っている職員の方からもアプローチして質の高いサービスの提供に繋がる取り組みが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加取り組みは、全職員で対応されており、意見・情報の交換と交流を通して自己研鑽に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談の時点で、本人・家族にホームの見学を兼ねて面接に来てもらい、現入居者との相性や雰囲気などを利用者側、ホーム側のそれぞれで短時間で判断し決定していたこともあり、そのことが入居者の安定までに時間がかかった一因であることは否めない。</p>		<p>ホームの多機能性と具体的な多機能性活用の取り組み内容を周知されている。今後は、馴染みの関係でのサービス利用提供も意識されているので継続性に繋がる取り組みが期待される。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>今まで、消極的だった敷地内の空き地利用に菜園作りをされている。経営者と入居者で土を入れて整備し、今年春・夏と収穫の喜びを共有されている。又、これをきっかけにいろんな可能性に場面展開され、入居者と職員・経営者の距離が近づき共同生活を満喫されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>菜園作りの努力の結果、入居者の潜在性や自発性、自信の回復が職員とのかかわりでも発揮され、双方向性の意思疎通に繋がっている。又、意思表示や回想、コミュニケーションのきっかけ作りにつながる取り組みとして季節ごとの菜園作業風景や毎月の行事写真を壁に展示されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の変化やちょっとしたサインも見逃さないよう観察と記録の徹底にメモ書きを活用されている。又、日々の個人記録の記入方法の見直しをされ、入居者の状態、職員の対応と結果・評価など介護計画を意識した記入法に変えられ、入居者の個別的ニーズの把握がされている。家族にもわかりやすく伝えやすい記録で介護計画に反映されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別記録の充実と職員の観察が活かされ、入居者の現状に即した介護計画の作成・見直しがされている。又、月に1回のカンファレンス会議も日々の記録が反映され、活発な意見交換がされている。</p>		

グループホーム 彩葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの多機能性の活用についての理解はされており、入居者に関しては状況に応じて特別の外出支援や早期退院へ向けた医療関係者との連携などで対応されている。又、地域に対しては地域推進会議を通して、地域の人の悩みや相談などにホームとしての具体的取り組みを示し、助言されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望を取り入れたかかりつけ医の継続受診を支援され、入居者の状況に応じて外来・往診受診に繋がられている。又、必要時には、かかりつけ医とも相談して最適の医療受診が出来るような支援もされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルケアに関してグループホームとしての対応範囲、協力医療機関との連携内容など看取りの方針を文書化されており、それを基に入居者の状態に応じた対応を家族、医療機関と随時話し合いをされ、方針の共有と支援に繋がっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応には常に注意を払い、職員間での注意の促しもされている。又記録物の保管管理場所も特定されており、慎重・丁寧に扱われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム生活の中に入居者の役割・担当が自然な形で構成され、意欲や行動の変化が逆に入居者の心身のバロメーターになり、職員の声掛けや誘導に反映され柔軟な対応をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、買い物、調理、盛り付け、後片付けなど一連の作業の中に入居者の能力・興味・経験を通した関わりの時間を設けられている。又、入居者・職員と一緒に食卓を囲まれ、見守り・声かけ誘導の配慮で可能な限りの自立支援とふれあいを通じた団欒を大事にされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間の制約はなく、入居者の希望に沿った支援をされている。卑近の例では、医師の判断を仰いで、ベッド上生活の入居者の入浴を技術と熱意で取り込まれ、今では離床の時間も長くなり、要望の表出で入浴支援されている。『気持ちよか』が職員にとって何よりの励みになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	共同生活の中で入居者一人ひとりが自分のポジションを見つけられ、活躍の場で喜怒哀楽を表されている。又、入居者間でも役目把握が出来ており、職員も組織構成に従い支援されており、一歩引いたところから見守られている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など日常的な外出の他に、気分転換も兼ねて個人対応の外出や集団外出など入居者の希望やレクリエーションの支援を取り入れられている。又、菜園への関わりで外気に触れる機会が増えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの実践では、運営推進会議でもホームの取り組み状況説明と地域の方への協力要請をされて、ホーム近辺での徐行運転の取り組みを町内会長から回答を頂いている。回答に甘んじることなく、更にホームとして職員の目配り、気配りの強化を伝えられ、日中の玄関開錠の理解・協力を呼応されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火安全対策の取り組みは消防署を通じて年3回、取り組まれているが、風・水害や地震などの自然災害に対する危機管理体制が希薄である。		避難所の確認や避難経路の確認、関連機関への連絡体制、備蓄品の保管・管理など自然災害時の取り決めを文章化又は一覧表にされ、非常災害時に備えられることが望まれる。

グループホーム 彩葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経営者サイドで調理師の資格を取られると共に栄養学についての学習もされ、現場に入り実践に活かされている。又、栄養バランスや食事量、水分摂取量など一日を通じた把握に心がけされているが、更に管理栄養士などの専門性を取り入れた献立の見直しや指導を仰ぐことも範疇に検討されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には五感を通じた見当識への配慮がされており、装飾品や時計、カレンダーなど入居者の目線、動線を意識した配慮がされており、換気や空気のよどみの解消も適宜されており、室内間及び外気との温度差にも注意が行き届いている。職員が常に駐在し、安心・安全に配慮された居心地の良い場所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの生活日数に比例して、入居者の居室も個性や状態が反映され、入居者にとって落ち着ける、馴染みの場所となっている。		